

- 2010/05/31 マオイスト「人民憲法」発表
- 2010/05/30 「列車テロ」とA・ロイ
- 2010/05/29 制憲議会, 1年延長: 第8次改憲案可決
- 2010/05/27 大統領の統治へ?
- 2010/05/26 国王利用, また始まる
- 2010/05/25 大統領委任独裁の可能性
- 2010/05/22 『赤星』の赤誠と空疎
- 2010/05/20 印マオイストの民間バス攻撃とA・ロイ
- 2010/05/18 印マオイストの攻勢とネパール状況
- 2010/05/17 マオイストとトヨタ
- 2010/05/15 ランドグレンUNMIN代表, はや再延長のおねだり
- 2010/05/14 制憲議会: 改憲延長, 決議延長, それとも大統領親政?
- 2010/05/13 毛沢東主義者が5星ホテルでプチブルに謝罪
- 2010/05/09 バンダー一時中断と今後のシナリオ
- 2010/05/07 マオイストの街頭政治と「人民」の分裂
- 2010/05/06 UNMIN 4ヶ月延長要請, ネパール政府
- 2010/05/05 UNMIN延長、閣議決定
- 2010/05/01 UNMIN, 期限延長要請を要請

2010/05/31

[マオイスト「人民憲法」発表](#)

谷川昌幸(C)

5月29日、マオイスト副議長にして博士たるバブラム氏がクラマンチの党集会で「人民憲法」を発表した。19部274条で100頁に及ぶ巨大な社会主義志向憲法らしい。



マオイスト・バナー

バブラム博士によると、MK・ネパール首相は反共和制であり、そのため新憲法制定が遅れているという。これに対し、マオイスト案は、人民憲法であり、社会主義の実現を志向するものである。

人民共和国は、大統領制をとる。大統領は人民直接選挙で、任期は5年。これは強力。独裁的大統領の下で、一気に社会主義の実現を目指すということらしい。

一方、連邦は下図のように12州からなる。あれれ！ 14州ではなかったかな？ いずれにせよ大統領制は中央集権的、連邦制は分権的。これでは股割きになってしまうのではないかな？



12州案 (KOL, 29 May)

10:29 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2010/05/30

[「列車テロ」とA・ロイ](#)

谷川昌幸(C)

5月28日未明、西ベンガル州で急行列車と貨物列車が衝突し、137人が死亡、約200人が負傷した(死傷者数未確定)。付近はマオイスト活動地帯であり、警察はマオイストの「列車テ

口」と見ている。

しかし、マオイスト・テロとはまだ断定はできない。たしかなのは、夜行急行列車がケマシュリ駅とサルディハ駅の間で脱線転覆したところに、5分後、鉄鉱石を満載した貨物列車が反対方向から突っ込んだこと。急行列車の乗客たちは逃げるまもなく衝突に巻き込まれ、現場は遺体が散乱、目も当てられない大惨事となってしまった。



(BBC, 28 May)

丸印が衝突現場。コルカタ(カルカッタ)の西150 km。

衝突原因となった急行列車の脱線はなぜ起きたのか？ 爆破されたという説と、レールが外されていたという説があり、警察は、現場にマオイスト系の「反警察暴力人民委員会 (PCPA)」ポスターが残されていたので犯人はPCPA民兵隊だとみている。これに対し、マオイストは、現場のPCPAポスターは偽物であり、マオイストは列車衝突とは無関係だと、真っ向から反論している。

いずれが真実か、まだわからない。単なる列車事故かもしれないし、マオイストとは無関係の集団によるテロかもしれない。しかし、インド・マオイストはネパール・マオイストよりも統制がとれておらず、様々なマオイスト系組織の一つが暴走した可能性も否定はできない。

いずれにせよ、政府・マスコミがマオイスト・テロと考え、マオイスト攻撃を激化させることは明白である。そこで窮地に立たされるのが、われらがアルンダティ・ロイ。

ロイは、[5月17日のマオイストによる民間バス爆破 \(特務警官ら44人死亡\)のときは、民間バスを警察隊に利用させたとして政府を非難した](#)。かなり苦しいが、それでもロイのマオイスト弁護には相当の根拠があった。

ところが、今回の列車衝突は、もしマオイストの攻撃であれば、いかなるロイといえども、弁護は難しい。貨物列車が鉄鉱石を運んでいたことくらいしか、攻撃の正当化理由は見あたらない。たとえ跳ね上がり分子によるテロだとしても、マオイストがらみとなれば、ロイへの体制側の攻撃がさらに激化することは避けられない。

しかし、いくらロイを攻撃しマオイスト弾圧を強化してみても、何ら問題解決にはならな

い。インドは、6万5千kmもの鉄道を有する鉄道大国。[地下鉄であれば、なんとかセキュリティ・チェックをやれるだろうが](#)、全国の鉄道をテロから守ることは不可能だ。夜行列車の運行停止も無理だろう。

インドはネパール以上にゲリラ戦には弱い。[ロイらの真摯な体制批判に耳を傾けないと](#)、インドは統制のとれないテロ多発の悲惨な人民戦争の泥沼に陥ってしまうであろう。



アグラ・カント駅(2010.3)

* The Times of India, 28-30 May 2010

* Hinsustan Times, 30 May 2010

9:39 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2010/05/29

[制憲議会、1年延長：第8次改憲案可決](#)

谷川昌幸(C)

制憲議会＝立法議会が、28日深夜、第8次改憲案を可決した。賛成580、反対5、欠席14（定員601、欠員2）。制憲議会の任期は、1年間延長された。

延長「密約」があったとはいえ、これは典型的なチキンゲームであった。マオイスト、UML、NCが合意に達し合意文書に署名したのは、28日23時頃。これに基づき、23時45分頃から議会審議が始まり、改憲案成立は翌29日午前1時25分頃のことであった。

このどたばたチキンゲームにおいて誰が弱虫であったかは、まだわからない。大筋では、誰も巨大制憲議会のおいしい既得権益を水泡に帰したくはなかった、ということであろう。

次期首相がどうなるかは、いまのところはっきりしない。MK・ネパール首相が辞任し、議会で次期首相を選出することになるようだが、はたしてここでマオイストも参加する挙国一致内閣ができるかどうか？ 1年かけて新首相を選出するといったことにならなければよいが。



(nepalnews.com, 29

May)

制憲議会延長と共和国成立記念日を祝して (?), アメリカ政府の宣伝が有力ネットを席卷。さすがアメリカ, 情報戦がうまい。"By THE PEOPLE"がアメリカ民主主義の宣伝, 右上の"The U.S. Constitution"がアメリカ憲法の宣伝。



(Rising Nepal, 29 May)

601議員の特権大集団。反対5人で民主主義？

11:01 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2010/05/27

[大統領の統治へ？](#)

谷川昌幸(C)

5月27日, マオイストとネパール首相がそれぞれの立場の堅持を宣言した。マオイストがネパール首相の辞任と諸党合意政府の回復を制憲議会延長の前提条件にしたのに対し, ネパール首相はそれを拒否, マオイストこそ統合されるべき戦闘員の数を明確化せよと要求した。密約がまだ生きておれば明日一転して延長決定となるかもしれないが, 今日の流れからすると, その目はほぼ無くなったようだ。

もし28日で制憲議会=立法議会が消滅してしまえば, 先に述べたように, 残るのは大統領(と最高裁)だから, 自ずと大統領統治, 大統領の委任独裁とならざるを得ない。大統領の直接統治か暫定首相を指名するか, そのいずれであっても, 暫定憲法に従いきちんとやれば, 問題はない。うまくやれるかどうか, 注視していきたい。

23:48 | [固定リンク](#) | [トラックバックの表示 \(1 件\)](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)
2010/05/26

[国王利用, また始まる](#)

谷川昌幸(C)

5月25日, 「イメージ・チャンネル」TVが元国王ギャネンドラ氏にインタビューし, これを新聞各紙が大きく報道している。

KOL記事(May26)によれば, 元国王はインタビューを通して極めて慎重な受け答えに終始した。実に冷静沈着, 見直した。たとえば, TV記者が「元国王」, 「未来の国王」のどちらで紹介したらよいか, と挑発したのに対し, 彼は, 私は「普通の市民」であり, 「他の人々と同じだ」と答えている。

あるいは, TV記者が, 1990年憲法の回復とともに王制も回復すると思うか, と挑発したのに対し, ギャ氏は, 他人の意見にコメントはできない, とさらりとかわしている。

この報道が正確だとすると, TV記者もそれを報道している諸メディアも, スケベ根性丸出しで元国王を利用しようとしていることは明白である。もし元国王が挑発に乗り少しでも野心を示せば, 大騒ぎとなり, まず第一にメディアが儲かる。次に, こちらの方が重大だが, 国王という共通の敵が出現して諸政党が歩み寄り制憲議会延長が実現する。

内部の対立が激化したときは, 外部に敵をつくるのが政治の鉄則。インドは, このイラストを見れば分かるように, 共通の外敵とはなりえない。やはりここは元国王にお出まし願うより仕方がない, ということらしい。

ネパールの諸政党は, まだまだ国王の権威に依存し続けているとってよいだろう。



makune baloon (Krishnasenonline, May2)

20:51 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [国王](#)
2010/05/25

[大統領委任独裁の可能性](#)

谷川昌幸(C)

制憲議会任期切れ(28日)が切迫し, 任期延長の大合唱が始まった。MK・ネパール首相が持

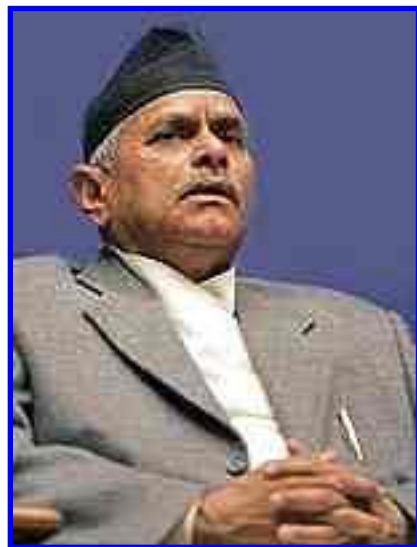
ちこたえるか否か、微妙な情勢だ。マオイストが議会第1党の既得権益保守に回れば、ネパール首相の続投となろう。

もし「密約」通りの既得権益保守がなければ、制憲議会＝立法議会の任期が切れ、首相も暫定憲法第38条により失職する。(暫定議会と立法議会は別であり、制憲議会が無くなっても立法議会は存続するという説もあるが、これは限度を超えた拡大解釈である。) この場合、憲法上の正統権力として残るのは大統領だけとなり、したがって必然的に大統領の「委任独裁」とならざるをえない。暫定憲法によれば――

第158条 障害除去権限

この憲法の施行において障害が生じた場合は、大統領は内閣の助言に基づきその障害を除去するための命令を出すことができる。この命令は、1月以内に立法議会の承認を得るものとする。

制憲議会 (=立法議会)任期切れ以前に、ネパール首相がヤダブ大統領に「障害除去権限」を委任する。その委任に基づき、ヤダブ大統領が暫定首相を指名し、次の制憲議会選挙 (あるいは制憲議会回復)まで統治させる。この「障害除去権限」は広範であり、「委任独裁」といってもよいから、ヤダブ大統領はこの権限によって秩序を維持しつつ次の制憲議会選挙 (あるいは制憲議会回復)まで統治できるであろう。



ヤダブ大統領

いずれにせよ、あと4日、「密約」か「談合」により制憲議会が延長されればよいが、たとえ延長できなくても2007年暫定憲法と大統領は残るのだから、かろうじて合法的正統権力は維持される。アナーキーや人民戦争再発を回避するため、大統領の「委任独裁」は考えられてしかるべき選択肢の一つであろう。

11:07 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民主主義](#)

2010/05/22

[『赤星』の赤誠と空疎](#)

谷川昌幸(C)

1. クリシュナ・センとその出版物

『赤星(Red Star)』はマオイスト (CPN-M)の準機関誌であり、クリシュナ・セン記念出版社(カトマンズ)から出版されている。最新号は第3巻13号 (2010年5月1-15日号)。



『赤星』表紙

『赤星』裏表紙

クリシュナ・セン(Krishna Sen)は、ジャーナリストであり、マオイスト人民戦争を支持し JanadeshやJanadishaを刊行していた。2001年11月28日、SB・デウバ内閣 (NC)が非常事態を宣言、警察にセンの出版社を襲撃させ、従業員を逮捕、印刷機器を押収させた。逮捕を逃れたセン(37歳)は地下に潜った。デウバ内閣は、マオイストを「テロリスト」に指定、センもそのリストに載せた。

2002年5月20日、センはナヤ・バナスワルで逮捕され、ポリス・クラブで手足を折られるなど残虐な拷問を受け、虐殺された。 kongress 党政府は、この事実を隠蔽し、センはゴルナでの戦闘で死亡したと報道させた。

センは1999年にもJanadeshにバブラム・バタライのインタビュー記事を掲載したことを理由に「公安法」により逮捕されている。センとその後継ジャーナリストらは、マオイスト支持を貫き、節を曲げなかった。彼らの不屈の抵抗を前にすると、だれしも肅然とせざるを得ない。

* Revolutionary Worker, #1160, 28 July 2002

* Nepali Times, #351, 1-7 June 2007

2. 『赤星』の赤誠

『赤星』5月1-15日号についても、マオイスト・イデオロギーへの赤誠はいささかの揺らぎもない。主な記事は次の通り。

社説「人民の抵抗に敬礼！」

特集「メーデーの抵抗」

バブラム・バタライUCPN-M副議長「われらは何百万人もの被抑圧大衆を歴史的メーデーに動員する」

CP・ガジレル（ガウラブ）「国際情勢はわれらに有利か不利か？」

IM・シグデル（パサント）「ネパール革命とイデオロギー闘争」

M・バイダヤ（キラン）「ネパール革命の輝かしい未来」

パサン人民解放軍軍令部長「PLAは重大な関心を持っている」

NB・チャンダ（ビプラブ）「勝利したがまだ未完の革命」

マヘッシュワル・ダハール「革命政党とメディアと闘争」

ビマル・ダハール「UNMINはネパールを去るべきか？」

近隣諸国動向「ダンテワダに敬礼！」

ハミッド博士「ネパールにラルサラム（赤の敬礼）！」

この号にはプラチャンダ議長は寄稿していないが、それでもそうそうたる執筆陣であり、いずれもがネパールの人民とマオイスト革命を絶賛している。彼らの多くが人民戦争を戦い抜いてきた人々であり、雑誌を出版しているのも弾圧に耐え抜いてきた志操堅固なジャーナリスト集団だ。マオイスト支持でない人々も、マオイストが他のどの政党メンバーよりも自らのイデオロギーに忠実であることは認めざるをえないだろう。マオイストも『赤星』も赤誠であることに疑いの余地はない。

3. 『赤星』の空疎

しかしながら、『赤星』のどの記事を読んでも、紋切り型であり、あまりにも空疎、人間らしさがほとんど感じられない。人民の解放のためにあらゆる犠牲をいとわず闘ってきた人々やその闘いを支持してきた人々なのに、その文章が非人間的なまでに無味乾燥になってしまうのは、なぜであろうか？

『赤星』写真にはメーデーなどに参加したおびただしい人民が写っている（表紙参照）。人民はあるいは動員されたのかもしれないが、彼らが厳しい生活を強いられ、これまでの体制に大きな不満を抱いていることは明らかである。ところが、記事では、そうした人民の苦し

みや怒りはきれいに整理され、紋切り型の建前論になっている。あのアルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材記事のような、読者の肺腑をえぐるような人間的義憤に満ちた文章は見られない。あるいは、イギリス左翼のG・オーウェルのような、弱者への繊細な心情的共感に溢れた文章も見られない。なぜだろう？

たとえば、ハミッド博士の「ネパールに赤の敬礼！」は、次のような文章に終始している。

「ロルパのゴルネティは、赤の思想があまねく浸透した遠隔の村々からなる政治的に美しいところであった。」

「2009年12月22日のマオイストの民族独立闘争宣言は、極めて客観的かつ科学的なものであり、私は至福に満たされた。」

「世界で、ネパールはもっとも革命的な国であり、UCPN-Mはもっとも革命的な政党である。」

「UMLとNCは、新憲法を必要とはしていない。」

ハミッド博士は、イラン人のハリ療法士であり、ボランティアとしてロルパの「ゴルネティ・モデル病院」で働き、これからノルウェーに戻るところだという（ノルウェー居住？）。

*ハミッド博士については、Red Star. 20-31 Dec. 2008参照。

ハミッド博士はマオイストを強く支持しているのだからマオイスト賛美となりがちにせよ、それでも、ここまで手放しで書かれると、大半の人は鼻白む思いを禁じ得ないだろう。どうして、こうになってしまうのだろう？ 不思議だ。



メーデー松明デモ (『赤星』)

ラルサラムをする生徒 (『赤星』)

4. スターリン似のバブラム副議長

『赤星』掲載の副議長バブラム博士の写真は、スターリンによく似ている。スターリンに似せようとポーズをとったのか？ それとも、マルクス主義を絶対的な権威とし、それを身体化して示そうとすると、自ずとこうなるのであろうか？ 右手拳をあげ、「ラルサラム！」とやると、身体の権威化はさらに進化する。

身体の権威化が進むと、チャップリンでお馴染みのステロタイプ化された独裁者になってしまう。



バブラム副議長 (『赤星』)

スターリン

5. 『赤星』とトヨタ

『赤星』記事の空々しさを倍加させているのが、プロレタリア人民とはおよそ無縁の豪華マンションと高級トヨタ車の派手な宣伝。雑誌出版には経費がかかるであろうが、いくら何でもこれは無神経であり、やり過ぎだ。

マオイストがトヨタを利用しているのか、それともトヨタがマオイストを利用しているのか？ 雑誌から受けるのは、マオイストの英雄的闘争をトヨタがちゃっかり利用しているという印象である。

抑圧・搾取が過酷であればあるほど、マオイストの闘争が激しければ激しいほど、それを伝えるメディアの広告媒体としての価値は上がる。被抑圧人民には豪華マンションも高級トヨタ車も全く無縁だが、マオイスト記事に関心を持つ内外のブルジョアは有望な顧客である。被抑圧人民を利用するという点では、マオイスト幹部や『赤星』出版者とネパール不動産業者やトヨタは暗黙の共犯関係にある。

『赤星』がイデオロギーと人民を称賛すればするほど、赤誠を誇れば誇るほど、暗黙の共犯関係が浮き上がってきて、読者は空々しさを感じざるをえない。マオイストがマオイストである限り、豪華マンションや高級トヨタ車とは両立しえないのではないだろうか？



高級マンション宣伝（『赤星』）

21:35 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)
2010/05/20

[印マオイストの民間バス攻撃とA・ロイ](#)

谷川昌幸(C)

インドのダンテワダでマオイスト(ナクサライト)が民間バスを地雷攻撃し、乗客41人が死亡した事件について、アルンダティ・ロイが政府を批判している。

「もしメディアが報道するように、マオイストがダンテワダで故意に民間人を標的とし殺したのなら、絶対に許されないことであり、いかなる法廷でも正当化はできない。しかしながら、大手メディアはしばしば偏向しており報道も正確ではない。別の筋によれば、SPO、警官以外の乗客はほとんどSPO志願者だったという。だから、正確な情報をまたねば、まだ何ともいえない。もしかりにバスに民間人が乗っていたのなら、彼らを戦争地帯で危険にさらした責任は政府にある。警官やSPO（サルワジュドムのあらゆる罪の責めを負う）に公共交通機関を使用させたのだから。」

「また、いまこのときにも、オリッサのカリングナガールやジャガトシンプールでは、何百人もの警官隊が、自分たちの土地を奪おうとする企業に非武装で抗議している人々を銃撃している、ということも決して忘れてはならないことだ。」(CNN-IBN, 19 May)

ダンテワダのバス爆破は、もし民間人が犠牲になったとするなら、悲劇的なことだ。このようなことは、ネパール人民戦争でも幾度となく起こった。インド人民戦争の報道を見るにつ

け、ネパール人民戦争停戦のありがたさが身にしみる。制憲議会会期切れを目前に控え、ネパール政治は紛糾しているが、人民戦争再発だけは何としても防止してほしいと願っている。

21:16 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2010/05/18

[印マオイストの攻勢とネパール状勢](#)

谷川昌幸(C)

ネパールでは憲法制定期限の28日に向け3大政党がチキンゲームをやっているが、もしカマル・タパ氏がいうように3党密約ができているのなら、UNMINにつづき制憲議会も延長され、めでたく既得権益は守られるだろう。

このネパール政治の成り行きと密接に関係しているのが、インド・マオイストの動向。インドでは、5月17日、チャティスガル・ダンテワダでマオイストが、特務警官(SPO)18人を含む約50人が乗った民間バスを地雷攻撃、SPO16人を含む44人が死亡した。女性、子供も犠牲になった。このダンテワダでは、4月6日に治安要員76人が殺害されたばかりだ。

バスに乗っていたSPOは部族民出身で、サルワ・ジュドムに属し、警官隊とともにマオイスト攻撃に当たっていた。

民間バスにSPOが乗っていたのはなぜか？ 新聞報道では、それは民間人を「人間の盾」として使用するためで、警察幹部さえ、そうしたことが日常的に行われてきたことを認めている。マオイスト側も、それがわかった上で攻撃した。

マオイストは、政府が強行する「グリーンハント作戦」への反撃を強化しており、17日の攻撃もその一環だ。これに対し、チダンバラ内相は治安要員のさらなる増強ばかりか、空軍の支援さえも要請した。暴力拡大の悪循環であり、インドも危なくなってきた。

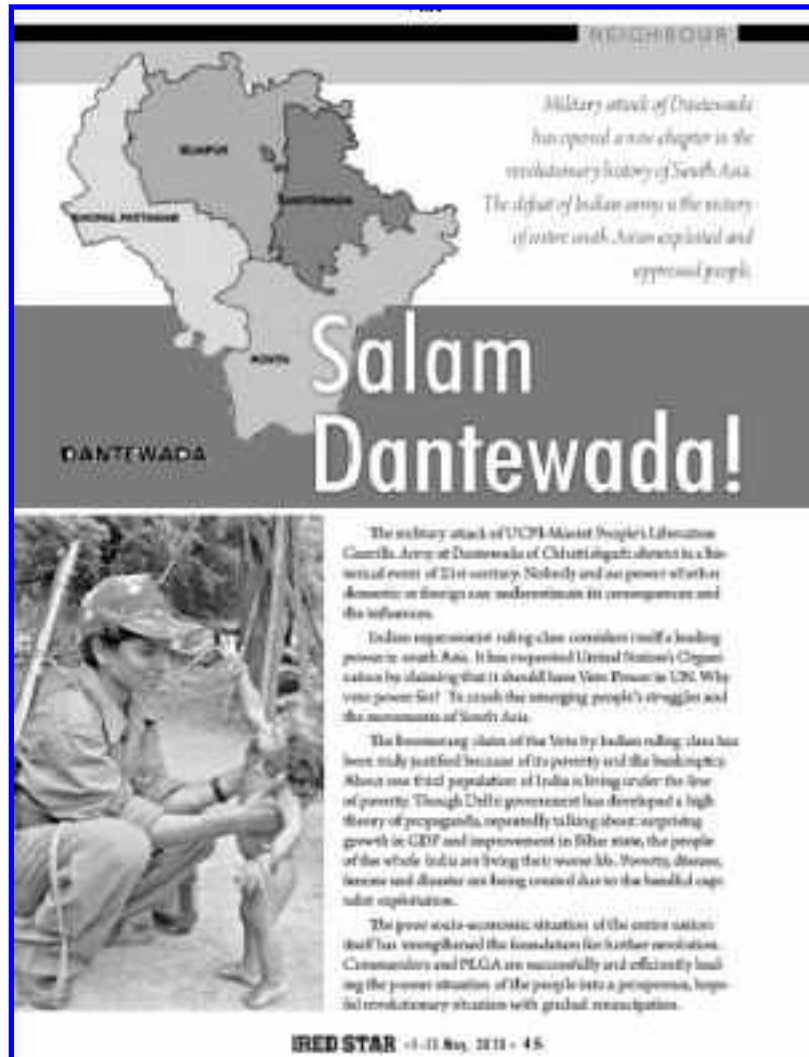


強力地雷で大破したバス(Hindustan Times, 17 May)

インドにおけるこのマオイスト運動の急拡大は、当然、ネパール状勢にも影響する。印ネ両国マオイストの関係は必ずしも良くはないが、しかし、もし制憲議会延長に失敗し、マオイストが体制外に出て人民戦争路線に復帰するなら、両国マオイストの共闘が今度は実現する可能性が高い。

インド政府は、牙を抜いた形で何とかしてネパール・マオイストを体制内化したいと考えているはずだ。ギリギリのところ、MK・ネパール首相の辞任、マオイストを含む暫定政府

設立, 制憲議会延長となるのではないか? 3党密約もある。それとも, 印マオイストの大攻勢に勇気づけられたマオイストが, 人民民主主義憲法公布施行, 人民政府設立へと突っ走るか? 結局はま〜るく納まるような気がするが, それでもまだどうなるかわからない。



印マオイスト「人民解放ゲリラ軍」のダン

テワダ攻撃を称賛する『赤星(Red Star)』 1-15 May 2010

■インド・マオイスト運動関連記事

- 2010/04/28 [「銃を持つガンディー」としてのロイ\(3\)](#)
- 2010/04/26 [「銃を持つガンディー」としてのロイ\(2\)](#)
- 2010/04/25 [「銃を持つガンディー」としてのロイ\(1\)](#)
- 2010/04/23 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(8\)](#)
- 2010/04/22 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(7\)](#)
- 2010/04/21 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(6\)](#)
- 2010/04/19 [ロイ, 公安法違反容疑で告訴される](#)
- 2010/04/19 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(5\)](#)
- 2010/04/18 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(4\)](#)
- 2010/04/16 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(3\)](#)
- 2010/04/14 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(2\)](#)
- 2010/04/11 [アルンダティ・ロイのインド・マオイスト取材報告\(1\)](#)
- 2010/03/22 [インド・マオイストの24時間バンダ](#)
- 2010/03/20 [マオイストと闘うインド内務省](#)

11:24 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2010/05/17

[マオイストとトヨタ](#)

谷川昌幸(C)

[超豪華ホテル「ヤク&イエティ」でのマオイスト集会](#)については、ネパール国内でも、いくら何でもブルジョア趣味にすぎるとの非難が出始めた。当然だ。「ヤク&イエティ」などでダタ飯を食っていると、地方人民からの遊離は避けられない。

それにしても、ネパール・マオイストは不思議な政党だ。帝国主義国や独占資本が嫌いなわけではない。機関紙(準機関紙?)の「赤星 (Red Star)」をぱらぱら見ていたら、プラチャンダ議長がトヨタ・カローラの大宣伝の上で演説していた。

どのようないきさつで、トヨタは、つい先日までテロリストの頭領であった共産主義革命の闘士プラチャンダ氏を応援するかのような広告を出したのか? 広告主はトヨタ・ネパール専売店なので、トヨタ本社はあずかり知らぬことなのだろうか? 広告料としていくら払ったのだろうか? マオイスト革命が成功し、トヨタがプラチャンダ主席の公用車として採用されることを期待しての先行投資だろうか?

ネパール・マオイストは、ひょっとすると「白であれ黒であれ、鼠を捕るのがよい猫だ」と考えているのではないか? そうでなければ、「ヤク&イエティ」集会など思いも及ばないはずだ。この猫に鈴をつけるのは、いったい誰だろう?

THE RED STAR

Vol. 1, Issue 2, February 1-15, 2008, Rs 150 | www.nepalreview.com | Nepal's National Magazine



'The first president of Republic of Nepal'

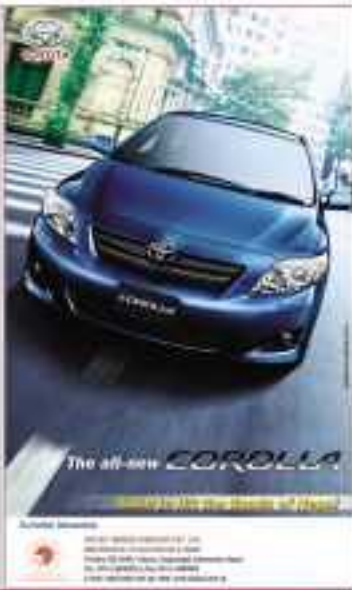
The decision of the Party has enthused to all the people of region and nationalities, casts and genders, and religious minorities.

...the decision of the Party has enthused to all the people of region and nationalities, casts and genders, and religious minorities. The decision of the Party has enthused to all the people of region and nationalities, casts and genders, and religious minorities. The decision of the Party has enthused to all the people of region and nationalities, casts and genders, and religious minorities.

Prachanda was appointed as the first President of the Republic of Nepal. The decision of the Party has enthused to all the people of region and nationalities, casts and genders, and religious minorities.

Forward going forces should unite

The question is how to move forward. The decision of the Party has enthused to all the people of region and nationalities, casts and genders, and religious minorities.



プラチャンダ議長を乗せ快走カローラ (Red Star, Feb 2008)

9:16 | [固定リンク](#) | [この記事を用用](#) | [マオイスト](#)
2010/05/15

[ランドグレンUNMIN代表、はや再延長のおねだり](#)

谷川昌幸(C)

UNMIN任期が9月15日まで延長されたばかりなのに、ランドグレンUNMIN代表が5月14日プラチャンダ議長と会い、たった4ヶ月の任期延長ではPLA統合の面倒は見きれない、と語ったという (nepalnews.com, 14 May)。記事が正しければ、任期切れまでに絶対に統合を完了せよ、という強力な圧力ではなかったようだ。もっと長期の駐留要請をしてくれ、ということか？ やれやれ。

国連平和活動が泥沼に入り抜け出せなくなっているのが、お隣のカシミールのUNMOGIP (国連インド・パキスタン軍事監視団)。1948年設立のUNCPI (国連インド・パキスタン委員会) が1951年にUNMOGIPに改編され、今日に至っている。なんと60年余にわたって、カシミールに引き留められているのだ。

ネパール、あるいはUNMINは、これをねらっているのではないか？ まさか、とは思いますが、

4ヶ月延長直後にランドグレン代表のこの発言だから、そう邪推されても仕方あるまい。

国連安保理の決議（5月12日，1921 [2010] ）それ自体は、もちろんかなり辛辣だ。

「UNMINは諸政党と協力し、ただちに、2010年9月15日までに残余の監視責任を〔ネパール政府に〕引き渡し撤退するために必要な措置を執るべきである……」

安保理は、もうこれ以上UNMINの延長はさせないぞ、と脅しているのだ。

しかし、ネパール政治家たちの国王代替UNMIN依存が除去できるだろうか？あるいは、UNMIN自身が既得権益の甘〜いしがらみを断ち切れるだろうか？そこが気がかりだ。

8:41 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [平和](#)

2010/05/14

[制憲議会：改憲延長，決議延長，それとも大統領親政？](#)

谷川昌幸(C)

1

MK・ネパール首相が5月11日、ヤダブ大統領を官邸に訪れ、制憲議会延長のための改憲案を早急に提出すると説明した。

しかし、憲法改正には2／3の賛成が必要であり、マオイストが反対すれば、可決できない。首相はギリギリまで努力するであろうが、おそらくそれだけに頼っているのではあるまい。

憲法64条にはこう規定されている——「ただし、制憲議会会期は、国家非常事態宣言により憲法起草が完成しない場合は、制憲議会の決議により最大6ヶ月間延長することができる。」

また、非常事態については、「大統領は内閣の助言に基づき、布告または命令により非常事態を宣言することができる」（143条）。

もしマオイストが28日に向けて全国バンダを再開し、混乱すれば、首相—大統領は非常事態を宣言し、制憲議会でのこの64条の決議を通してしまえばよい。改憲ではないから、2／3は不要であろう（ここは微妙、2／3とも解釈できる）。

2

あるいは、逆説的だが、会期延長ができず、CAが消滅してしまえば、残るのは大統領のみ、大統領の天下である。

首相については、立法議会（制憲議会）が消滅すると、それにより自動的に失職する。「首相は次の場合に解職される。b）立法議会の議員でなくなったとき」（38条7）。

ところが、大統領は、いわば国王的存在であり、CAが消滅しても平気だ。

「大統領は新憲法を制憲議会が公布施行するまで在職する。」（36条C）

「大統領は内閣の助言に基づき必要な命令を公布施行することができる」（88条）

「大統領はネパール国軍の最高司令官である。」(144条)

大統領の任期は新憲法制定までである。命令や非常事態宣言には内閣の助言が必要だが、CA消滅とともに内閣が消滅してしまえば、大統領だけでやらざるをえないし、そうなるだろう。大統領(とその支持勢力)にとっては、新憲法など制定されない方が好都合なのだ。

3

さてどうなるか? 新憲法など、スジャータ副首相が今日語ったように、その気になればすぐできる。その気にならなければ、できない。その場合、改憲による会期1年延長か、首相—大統領による国家非常事態宣言・会期6か月延長か、あるいは期限切れでCA消滅・大統領親政か——まるでパズル、皆目見当もつかない。



制憲議会・議場



制憲議会シンボルマーク

20:00 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2010/05/13

[毛沢東主義者が5星ホテルでプチブルに謝罪](#)

谷川昌幸(C)

プラチャンダ議長が5月12日、無期限バンダの誤りを認め、カトマンズ・プチブルに全面的に謝罪、あらためてMK・ネパール首相の辞任を要求した。バンダ停止後の5月8日、クラマツ・マオイスト集会でプラチャンダ議長がカトマンズ知識人・ジャーナリスト・実業家らの反バンダ言動を激しく非難し、彼らの猛烈な反発を招いた。これはまずい、ということで、12日の謝罪となっただらしい。



ヤク&イエティ集会のマオイスト幹部

(KOL, 12 May)

ネパールの都市部では、グローバル資本主義化のおかげで、ブルジョアジーが急成長し、彼らを敵に回してしまうことは困難になってきた。いまの日本ではバンダのようなことは事実上できないが、ネパールでもグローバル資本主義化とともに、バンダは経済的・社会的に損失が大きくなり、もはや以前のように実行できなくなりつつある。ご本尊の毛沢東の時代のような、農民革命はいまのネパールではもはや無理であろう。

しかし、マオイストの支持層であり国民の大半を占める地方農民にとっては、あるいはより直接的にはバンダのためにカトマンズに動員されてきた数万の地方人民にとっては、プラチャンダ議長のカトマンズ・プチブルへの謝罪は背信行為ではないか？ マオイスト幹部たちは、快適な都会生活に取り込まれ、地方人民の切り捨てへ向かい始めたのではないか？

プラチャンダ議長のリップサービスは今に始まったことではない。[2008年1月2日には人民解放軍集会で「UNMINにPLA戦闘員は3万5千人と吹っ掛け、2万人を認めさせた。本当は4～8千人なのに」といった趣旨の発言をし、これが2009年5月暴露・放映され、UNMINや7党を激怒させた。](#) 目の前のPLAへのリップサービスだが、もし国軍への統合が5千人前後となるのであれば、その責任はこのプラチャンダ発言にあるといってよい。もともとプラチャンダ議長はネアカであり、愛すべき人物だが、目の前の人々を喜ばせようとし、リップサービスをしすぎる傾向がある。

12日のカトマンズ・プチブルへの謝罪も、リップサービスであろうが、ひょっとして本心かなと思わせるのは、マオイスト幹部の度し難いプチブル根性である。彼らには地方農民の心情など全く眼中にない。

12日のマオイスト主催の集会は、超豪華5星ホテル「ヤク&イエティ」で開催された。日本プロレタリアの私は、トイレ拝借くらいで、宿泊など思いも及ばない。宿泊代は1泊185～525ドル。これはネパール人の1人当たりGDPの1年以上以上に相当する。



「ヤク
ティ」
プール



カジノで遊ぶブルジョアたち

ホテル「ヤク&イエ

さらに反人民的なことに、この写真のようにホテルにはプールまである。地方では、女性や子供が水くみの重労働をさせられ、病気になったり学校に行けなくなったりしている。カトマンズ盆地ですら、安全な水のない家は少なくない。それなのに、このホテルでは外人ブルジョアやカトマンズ・プチブルのために、プールで清潔な水をふんだんに使い、遊ばせている。

そんな5星ホテルに、地方人民の敵、都市プチブルを招待して、謝罪してよいのか？ ホテル代はいったい誰が払ったのか？ これは、種まきが始まるというのに、なけなしの粗末な

服を身につけ、サンダル履きでカトマンズへ動員されてきた地方住民への裏切りではないか?

プラチャンダ議長のカトマンズ・プチブル批判は、決して間違っていない。事實は、彼の発言通りなのだ。問題は、彼のその場しのぎのリップサービスにある。そして、それに、地方住民に支持されながら都市プチブル生活を享受している、という甚だしい言行不一致が重なる。これでは、いずれ誰からも信用されなくなってしまうだろう。

* KOL, 12 May 2010

12:00 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2010/05/09

[バンダ一時中断と今後のシナリオ](#)

谷川昌幸(C)

5月7日夕方、マオイストがバンダの一時中断を発表した。中止ではなく一時中断であり、時期を見て再開される。このバンダ中断でマオイストを含む体制派は当面の利益を確保した。やはりネパールの政治家は有能だ。

特に老練であったのは、MK・ネパール首相。プラチャンダ議長が、カトワル統幕長解任問題で「象徴」にすぎないはずのヤダブ大統領に完敗し、あっさり政権放棄してしまったのに比べ、「無能」「インドの手先」などと罵声を浴びながらも政権を維持してきたのは、立派だ。マオイストもNC,UMLも結局いまの体制を壊したくないのであり、ネパール首相は頑張ればまだまだ体制御輿に乗り続けられるかもしれない。今後のシナリオは次の三つ――

(1)制憲議会延長

暫定憲法第64条により制憲議会を6ヶ月延長し、11月末までとする。マオイストを含む体制派にとっては、これがベスト。

- ・ 600名弱の議員の特権温存
- ・ マオイストは議会第1党の勢力維持
- ・ UML, NCなどの与党は政権与党権益享受
- ・ UNMINは9月15日まで存続

(2)制憲議会解散, 暫定政府継続

制憲議会の延長に失敗し、28日で議会が解散した場合、議会なしの暫定政府だけが継続することになる。(制憲議会が「暫定立法議会」として居残る手もあるが、これは上記(1)と同じこと) この場合、600名弱の議員が特権を失う一方、首相、大統領らの権力、権益は激増する。

したがって、マオイストは28日に向けて「首相」ポストの獲得に全力をあげるだろう。首相ポストを握ればしめたもの、議会の制約を受けることなく、人民民主主義の実現に向け自在に勢力拡大を図ることができる。

しかし、もし首相ポスト争奪戦に敗れると、議会第1党の地位も政府権益も失い、いわば「失うものは何もない」状態となり、再びバンダ、あるいは最悪の場合人民戦争に戻るおそれがある。

もし28日までに諸政党の妥協がなり、「拳国政府」が成立、マオイストも政府に参加し権力分有状態になれば、人民戦争再開の悪夢は防止されるだろうが、議会がないので、結局は「街頭政治」とならざるをえないだろう。

(3)憲法制定・選挙実施

28日までに憲法が制定されれば、新憲法による選挙、正式議会成立、新政府選出となる。

憲法など、その気になれば、数日、いや1日もあれば制定できる。すでに原案はいくつもできているはずだから、どうしても合意できない部分を削り、骨格だけの「基本法」として憲法を制定し、あとから修正条項を追加していけばよい。

これが王道だが、現体制内の全員が特権を失うことになるので、誰も本音ではこれを望んではいないだろう。

このように見てくると、制憲議会の6ヶ月延長がネパール政治家にとってもUNMINにとっても望ましいことになる。カネをかけたくない先進諸国政府からの圧力や、新体制派既得権に対する新反体制派の台頭もあるだろうから、どうなるかわからないが、現状では制憲議会延長の可能性が最も高いように思われる。

11:54 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民主主義](#)

2010/05/07

[マオイストの街頭政治と「人民」の分裂](#)

谷川昌幸(C)

バンダ6日目の5月7日、バンダを続行しようとするマオイストと、これに反対する人々が各地で衝突した。負傷者多数。カトマンズでは警官隊が催涙弾を発射した。

カトマンズの反バンダ「平和行進」は、商工会議所(FNCCI)、ホテル協会(HAM)など、48団体が呼びかけ、数万人が参加した。かなりの規模だ。



「平和行進」集会(Republica, 7 May 2010)

1

これは「人民」の分裂、マオイスト「人民」と反マオイスト「人民」の衝突の始まりとなるかもしれない。この状況は、かつての「人民」と「国王」の対立よりもはるかに恐ろしい。民主主義は危険思想なのだ。

民主主義では、この危険を防止するため、「選挙→議会→法律→施行」という手続きが定められている。民主主義は、「人民」の支配というよりは、この手続きの遵守そのものなのである。

ところが、選挙により第1党になったマオイストが、自らこの手続きを無視し、街頭政治に打って出た。マオイスト新民主主義革命論からすれば当然かもしれないが、「人民」が分裂し始めた現在、この論理にも以前のような神通力がなくなり始めた。アナーキー街頭政治に陥らなければよいが。(街頭政治については下記リンク記事参照)

2

マオイスト街頭政治は、兵糧でも限界が見え始めた。これまでマオイストは、徴発や強制寄付で兵糧をまかってきた。ところが、「人民」が分裂し始めると、これが難しくなる。

カマルデブ・バタライ氏は次のように計算している(KOL, 7 May)。

- ・マオイスト・デモ隊総経費=1億2千万ルピー (5月1~5日)
- ・1日当たり総経費=2千万ルピー。そのうち食費1千万ルピー
- ・仕出し弁当屋への支払い=1人1日2食で100ルピー
- ・医療費=2万5千~3万ルピー/日
- ・参加手当(お小遣い)=支払われているが、額は不明

この莫大なデモ経費を、旧日本軍式現地調達でやっていこうというのだから、無理が生じる。資金的にも、マオイストは苦しくなってきた。

代替国王のUNMINが仲介にはいるだろうから、機を逸することなく、矛を収めるべきだろう。マオイストが議会政党として権力奪取を目指すなら。

■街頭政治

[制度わか~んない：街頭政治の論理と心理](#)

[議会政党の街頭政治](#)

[マオイスト文化大革命にグローバル危機の追い風](#)

19:22 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2010/05/06

[UNMIN 4ヶ月延長要請, ネパール政府](#)

谷川昌幸(C)

ネパール政府は5月5日、国連に対し、UNMINの4ヶ月延長を要請する書簡を送った。任務は従来通りで、国軍の監視も行う。国連が受諾すれば、任期は9月15日まで。

UNMIN延長がほぼ決まったので、いまの紛争は、せいぜい連立の組み替え、首相の交代で終わる可能性が大となった。国王のもとでの政権のたらい回しと同じである。

14:03 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [平和](#)

2010/05/05

[UNMIN延長、閣議決定](#)

谷川昌幸(C)

5月3日、UNMINの12月15日までの期限延長要請が閣議決定され、これでMK. ネパール首

相はUNMINカードを手にした。

対マオイスト交渉にこのカードをどう使うか？ 延長密約があるとはいえ、マオイスト側も最大限の成果を得ようとするだろう。あと10日、たぶん密約通りUNMIN期限延長は実現するだろうが、ネパールのこと、まだどうなるかわからない。

日本陸軍も、撤退の準備をしておいた方がよいであろう。

9:19 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [平和](#)

2010/05/01

[UNMIN, 期限延長要請を要請](#)

谷川昌幸(C)

ランドグレンUNMIN代表が、5月1日朝、首相官邸を訪れ、ネパール首相にUNMIN期限延長要請を、要請した。UNMIN期限は5月15日まで。すぐ延長要請をしてもらわないと、間に合わない。早く延長要請をしてくれ、ということらしい。

ランドグレン代表は、すでに4月28日、マオイストのバタライ副党首と会い、延長要請をしたが、このときバタライ博士からは、人民解放軍2万人の国軍統合を交換条件として出されたいらしい。

今朝のネパール首相との会談では、逆にUNMINはマオイスト寄りだと嫌みを言われ、色よい返事をもらえなかったという。

いかにもネパールらしい。国連は議会派7党とマオイストに哀願され、2007年1月、UNMINを設立、大金を湯水のごとく費やし、平和構築に努力してきたのに、その恩などケロリと忘れ、マオイストも政府与党も、UNMINをこげにし、最大限の利益をむしり取ろうとしている。

それでもUNMINは引き上げるわけにはいかない。平和構築に失敗すれば、メンツに関わる。ネパールの政治家たちは、その弱みを見抜き、UNMINをしゃぶり尽くすつもりなのだ。

もちろんUNMINに引き揚げられてしまって困るのはネパールの政治家たちだから、UNMINから最大限の約束を取り付けてから、期限延長を要請するであろう。しかし、先述のように、これはチキンゲームだから、成り行き次第でどうなるかわからない。わが日本陸軍も撤退の準備をしておいた方がよいだろう。



延長要請を要請するランドグレン代表

(nepalnews.com)